

学部・研究科名 農学研究科  
 学部長・研究科委員長名 多田 耕太郎  
 学科名・専攻名 農学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	各研究室がそれぞれの専門領域を中心に広範、多岐にわたる分野の授業を展開し、カリキュラム・ポリシーに基づき農学を総合的に学習できる授業科目を設定している。	大学院発表会および専攻のポスター発表会を実施している。さらに、7月に計画・中間発表会を実施して、大学院での研究のさらなる充実を図っている。	最新の内容を盛り込んだ授業を実施するとともに、これに沿ったシラバスとするように常に見直しを実施している。基準を明確にして成績を評価している。学位授与についても規定に従って実施している。	講義科目では対話型の授業を取り入れ、演習科目ではプレゼンテーションを中心に発表内容を総合的に評価している。	教育課程及びその内容、方法について、専攻内会議で随時問題点をチェックし、専攻内で情報共有を図り、常に改善・向上に努めている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・作物学、園芸学、植物育種学、植物病理学、農業環境学およびポストハーベスト学など多様かつ専門的な科目が開講されている。	【長所】 ・1年生からプレゼンテーションの機会が用意されているため、プレゼンテーション能力の向上が図られている。	【長所】 ・特論、演習科目により各自の専門性を、選択科目でより広い農学関連の知識を習得できる。	【長所】 ・計画発表や中間発表などを通して学習状況、研究の進行状況を随時把握できている。	【長所】 ・幅広い学問分野で様々な学会に教員が所属しているため、農学に関する総合的な情報が共有されている。
	【特色】 ・各分野の基礎的な内容である特論科目に加え、演習科目でより深く、応用的な内容が提供されている。	【特色】 ・各専門の学会で活躍する院生が一堂に会し、発表・議論できる場となっている。	【特色】 ・演習でのプレゼンテーションを通じて、思考力、問題解決能力の向上を図っている。	【特色】 ・専攻内の広い分野に属する教員が、それぞれが指導する院生の学習成果について、相互にチェックしている。	【特色】 ・農学に関する総合的な情報が共有でき、広い視野による考え方で議論ができている。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし。	【問題点】 ・なし。	【問題点】 ・なし。	【問題点】 ・なし。	【問題点】 ・なし。
	【課題】 ・なし。	【課題】 ・なし。	【課題】 ・なし。	【課題】 ・なし。	【課題】 ・なし。
根拠資料名	資料基1（3ポリシー）	資料基2（農学専攻 研究計画・中間検討会プログラム）			

## 2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	専門性を重視した入学者選抜を実施している。さらに、進学のパワーを上げるために推薦入試も実施している。入学者選抜に際しては、専攻内の全指導教授で合議のうえ入学者を決定している。	年3回（学内推薦、I期およびII期）の入試において、その状況について教員間で議論を重ね、適切性を点検している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・研究室配属がきまる学部3年次から大学院進学に関する情報を周知して、進学意識の向上を図り、卒業論文から高いレベル研究を目指している。	<b>【長所】</b> ・学内推薦は、意欲のある学生が早期に進学を決定できる点が長所である。
	<b>【特色】</b> ・学部生の早い段階から、より高度な専門教育で進学をして研究を志す人材を発掘することに努めている。	<b>【特色】</b> ・早期に進学が決定することで、学部から学会発表等を目指して着実に研究に取り組むことができる。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・特になし。	<b>【問題点】</b> ・特になし。
	<b>【課題】</b> ・継続的な定員の充足と優秀な大学院生確保の両立。	<b>【課題】</b> ・学部成績上位者の進学の促進。
根拠資料名		

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する現状説明	専門性はもちろん、持続的な研究、教育、研究室運営および専攻運営できるよう適切な人員配置を実施、今後の計画を示している。	大学院指導教授は適切に配置できている。若手や中堅教員が担う授業担当教員と指導補助教員が増加した。	複数指導体制に向けて、昇格人事を進めており、同一専門分野における複数教員体制としている。	若手教員への積極的な留学の推奨とともに、それに伴う留学中の授業代行などの支援で資質の向上を図っている。さらに、科研費はもちろん、学内外の競争的研究資金の獲得に向けて、教員間での情報交換を常に実施している。	学科会議と専攻内会議を接続して実施していることで、大学院担当教員以外にも大学院に関する情報の共有ができています。このため、組織の適切性について定期的に点検・評価が可能となっており、その結果を基にした改善・向上の取り組みを迅速に実施できている。
現状説明を踏まえた長所・特色	<b>【長所】</b> ・中長期的に研究室など組織の将来像を踏まえた編成計画が立案できる。	<b>【長所】</b> ・特になし。	<b>【長所】</b> ・特になし。	<b>【長所】</b> ・教員の留学に際しては、研究分野の近い教員が学生指導に協力している。	<b>【長所】</b> ・学科と専攻との一体的な運営。
	<b>【特色】</b> ・特になし。	<b>【特色】</b> ・教員歴の長い経験豊富な指導教員を配置している。	<b>【特色】</b> ・特になし。	<b>【特色】</b> ・国際経験が豊富な教員が育成できている。	<b>【特色】</b> ・点検・評価の結果を基にした改善・向上に向けた取り組みの迅速な実施。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<b>【問題点】</b> ・特になし。	<b>【問題点】</b> ・特になし。	<b>【問題点】</b> ・指導体制は整備されているものの、授業担当教員や指導補助教員は必ずしも充分ではない。	<b>【問題点】</b> ・教員の留学中の研究室等の負担軽減。	<b>【問題点】</b> ・特になし。
	<b>【課題】</b> ・学科全教員を大学院授業担当教員や指導補助教員とすること。	<b>【課題】</b> ・若手の授業担当教員や指導補助教員の積極的活用。	<b>【課題】</b> ・授業担当教員や指導補助教員の増加。	<b>【課題】</b> ・代替教員の確保。	<b>【課題】</b> ・特になし。
根拠資料名	資料基3（教員組織の編制方針）				

学部・研究科名 農学研究科  
 学部長・研究科委員長名 多田 耕太郎  
 学科名・専攻名 動物科学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	2024 年度より新カリキュラムが開始となり今年度は2年目となる。	・専攻全体での研究進捗プレゼンテーションを設定し、教員が院生研究の進展を把握する体制を作っている。 ・特別講義において積極的に外部講師を招喚し先端研究を学ばせている。学会発表・論文執筆を奨励し科目として提供している。	・学生に過大な負担とならないよう配慮しつつレポートを課すなど各教員が成績評価を適切に実施している。学位取得のための口頭発表審査会は専攻内の指導教授全員が出席して対面で行い、学位授与を決定した。	・専攻説明会において学位授与方針を説明し、年2回の専攻全体での研究進捗プレゼンテーションにより、担当指導教授以外にも複数の専攻内の教員で学習成果を把握、評価している。	・授業担当者は各自、大学で実施している授業評価アンケートの結果を考慮し、講義内容の改善や向上を試みている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・新カリキュラムは専修研究室の基幹科目を中心としており、各専修を深く学ぶことが出来る。	【長所】 ・専攻教員全体で大学院生へのサポートが可能である。	【長所】 ・専攻教員全体で大学院生へのサポートが可能である。	【長所】 ・専攻教員全体、大学院生同士でのディスカッションが可能である。	【長所】 ・定期的な点検・評価
	【特色】 ・特別講義において外部講師による専修分野を幅広く俯瞰した最新の専門知識の習得が可能である。	【特色】 ・教員からのアドバイスのみならず、大学院生同士のディスカッションにより、切磋琢磨できる。	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・専修以外の分野の専門知識を得る機会が少ない。	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特別講義などの活用により、問題点を解決する。	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし
根拠資料名	大学院シラバス、大学院学生便覧、履修モデル、特別講義実施記録	専攻会議記録、研究進捗プレゼンテーション実施記録	大学院シラバス、学位論文審査基準、口頭発表審査会実施記録	専攻説明会実施記録、研究進捗プレゼンテーション実施記録、専攻3ポリシー	授業評価アンケート、授業評価アンケートに対する改善計画書

## 2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院入試説明会の際、大学院進学希望学生全員に対し、アドミッション・ポリシーおよび入試制度について説明をしている。</li> <li>・入試の面接、試験の得点や順位などの確認は、指導教授全員で行い、公正に実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Ⅰ期およびⅡ期入試採点時には指導教授相互に情報公開とディスカッションを行っている。</li> <li>・博士前期課程の学生数を定員以上に確保できている。</li> </ul>
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の試験に希望者には TOEIC を導入し、客観的な英語能力の評価が可能となっている。</li> </ul>	<b>【長所】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各専修で指導教授が学部学生の適性を見極めたうえで積極的に進学を促している。</li> </ul>
	<b>【特色】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	<b>【特色】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究室ごとに十分な進学者を確保するような個別の努力が必要である。</li> </ul>	<b>【問題点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究室ごとに十分な進学者を確保するような個別の努力が必要である。</li> </ul>
	<b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	<b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>
根拠資料名	大学院入試説明会の実施記録（参加者数等含む）、大学院入試志願者数表	専攻会議記録、研究進捗プレゼンテーション実施記録

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input type="checkbox"/> つなげている <input checked="" type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する現状説明	・各専門分野に適切な人員を配するとともに、若手教員が大学院授業担当者に昇格できるよう、各指導教授および若手教員自身に周知している。 ・大学の理念・目的、研究科の教員組織の編成に基づき、専攻の教員組織の編成方針を作成し、本学のホームページ上で公開している。	・大学院授業担当者を増やすことで、大学院教育研究活動の更なる向上を目指している。	・専攻の各指導教授に対し、昇格申請の案内を実施している。 ・公募に当たっては専攻内で将来構想を提示して、採用条件を定めている	・企業などとの共同研究、外部資金の獲得、大学院生の特別研究員の申請などのアナウンスを行っている。	適時、運営上の問題点があれば、大学側に改善を申し入れる機会がある。
現状説明を踏まえた長所・特色	<b>【長所】</b> ・各分野に専門性の高い教員を組織している。	<b>【長所】</b> ・同一分野に職階の異なる複数教員を配置している。	<b>【長所】</b> ・特になし	<b>【長所】</b> ・特になし	<b>【長所】</b> ・特になし
	<b>【特色】</b> ・特になし	<b>【特色】</b> ・特になし	<b>【特色】</b> ・特になし	<b>【特色】</b> ・特になし	<b>【特色】</b> ・特になし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<b>【問題点】</b> ・専修分野ごとに指導教員数にばらつきが生じている。	<b>【問題点】</b> ・特になし	<b>【問題点】</b> ・特になし	<b>【問題点】</b> ・特になし	<b>【問題点】</b> ・特になし
	<b>【課題】</b> ・特になし	<b>【課題】</b> ・特になし	<b>【課題】</b> ・特になし	<b>【課題】</b> ・特になし	<b>【課題】</b> ・特になし
根拠資料名	専攻の教員編成方針、学科（専攻）教員配置表	学科（専攻）教員配置表	教務職員資格審査基準及び関連書類	専攻会議記録	専攻会議記録、学科（専攻）教員配置表

学部・研究科名 農学研究科  
 学部長・研究科委員長名 多田 耕太郎  
 学科名・専攻名 生物資源開発学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	大学院設置時に文科省に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」に記載されている教育課程の編成の考え方及び特色に従って、体系的に編成している。	オムニバス形式の講義を一定数開講し、専攻教員の講義に広く接する機会を設け、学生の教育効果の向上を図った。	シラバス等で科目ごとに評価基準を明記すると同時に、初回講義において学生に説明している。シラバスの作成及び成績評価は大学の基準を順守して行った。	学習成果を検証する最終試験の実施とその後の学位判定会議における指導教員の合議による学位認定の過程で適切に把握および評価している。	授業評価アンケートを活用した教育内容、方法の点検を毎年行い、必要に応じて改善のための計画を立案している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> 生物資源開発学の基礎知識を基盤として、それをさらに深化させるための概論科目と専門分野の特論科目を配置し生物多様性・生物資源に関する高度な知識と問題解決能力を養う教育が展開されている。	<b>【長所】</b> 専攻教員の様々な専門性、特に研究の具体的な内容の講義で触れることで学生は新たな視点を得ることができる。	<b>【長所】</b> ・学生個々の研究や研究室活動を評価するよう努めている。 ・大学の基準に則った学位認定プロセスが指導教授の学位判定会議によって実現されている	<b>【長所】</b> ディプロマポリシーに添った人材育成	<b>【長所】</b> アンケートを活用することで客観的かつ効果的な点検と評価が学生目線に立って行われている。
	<b>【特色】</b> 学部で展開されている基礎教育を俯瞰しつつ現代社会が抱える課題と本専攻の研究開発の接点に注目した講義によって学生が自ら考える機会を提供している。	<b>【特色】</b> 大学院の少人数講義ではグループワークのように一つ一つの疑問について教員の適切な解説のもとグループで学習することができる。	<b>【特色】</b> ・シラバスの評価基準について複数の教員で常に確認することで質の高い一定した基準の成績評価、単位認定を実現している。 ・厳格かつ公正な学位認定基準の遂行	<b>【特色】</b> 特になし	<b>【特色】</b> 教員自らもしくは教員同士では気が付かないような改善点が見出される。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> 特になし	<b>【問題点】</b> 特になし	<b>【問題点】</b> 特になし	<b>【問題点】</b> 特になし	<b>【問題点】</b> 特になし
	<b>【課題】</b> 特になし	<b>【課題】</b> 特になし	<b>【課題】</b> 特になし	<b>【課題】</b> 特になし	<b>【課題】</b> 特になし
根拠資料名	専攻会議議事録	大学院学籍簿 各授業の履修者数	専攻会議議事録、学位判定会議資料	学位判定会議資料	授業評価アンケート結果

## 2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	「生物多様性の保全と利活用の探究」を目指す本専攻は、野生動植物から昆虫、薬用植物とそれらの遺伝資源に至る幅広い生物に興味関心を持つ学生を求めており、入試課とも連携して入試制度を整備し、学生募集等に取り組むとともに、公正な入学者選抜に努めている。入学者選抜における合否判定会議は全指導教員の合議によって行われている。	学生受入れに際しては、事前に志望学生と指導予定教員との間で十分な話し合いを行い、また教員同士情報を共有することで対応している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> 学生募集および入学者選抜に関して全指導教員がその方針を確認し、重要な判断を合議によって決めることで制度の遵守と選抜方法の公正性が保たれている。	<b>【長所】</b> 十分な話し合いを行うことで志望学生には大学院での学びの具体的イメージを掴んでもらいミスマッチを予防している。
	<b>【特色】</b> 特になし	<b>【特色】</b> 入学後の研究指導において相互理解が成り立っているからこそ学位取得に向けたスムーズな指導が可能となっている
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> 特になし	<b>【問題点】</b> 特になし
	<b>【課題】</b> 特になし	<b>【課題】</b> 特になし
根拠資料名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻会議 議事録</li> <li>・合否判定会議資料</li> <li>・東京農業大学大学院案内</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院入試願書</li> </ul>

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	文科省に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」に記載されている教員組織の編成の考え方及び特色に従った方針を専攻として明示している。	専攻新設時に教育研究上の目的を十分理解し、その具現化に向けた強い意欲を持つ教員配置が行われ、その体制が維持されている。	専攻の指導体制を維持するための人事採用計画が策定されると共に若手教員のキャリアアップのための海外留学計画を策定し、将来見据えた人材育成計画が立てられている。	若手教員の海外留学計画を策定し、円滑な専攻運営のもとでの人材育成に努めている。学内外の研究費への積極的な応募による教員の個人研究の推進、他機関研究者との共同研究の推進、さらには研究室や学部横断型の学内外プロジェクトの推進などを通じて、教員の資質の向上に努めている。	教育・研究以外の業務が特定教員に偏らないよう、専攻会議等を通じて組織内での役割分担の点検・評価を行うとともに、事務職員との連携を深め作業の効率的を計るよう努めている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> 実験系とフィールド系教員および動物系と植物系を専門とする教員といった複合的な専門バランスにより多彩な知識を学生に教授する体制が取られている	<b>【長所】</b> ・各研究室に指導教授を配置し、専攻の全ての分野で大学院生を指導する体制がとられている。 ・専攻教員の専門分野でカバーできない分野の専門家を客員教授として招いている。	<b>【長所】</b> 定年退職を迎える指導教授が現れたとしてもその時期に大学院生を指導できる資格を持った教員が配置されるように構成されており、大学院生の学びの機会を途絶えさせないシステムとなっている	<b>【長所】</b> 専攻の研究力を持続的に向上させる効果が期待される。	<b>【長所】</b> 輪番制による業務分担システムは専攻運営の複雑な業務を全ての教員に様々な業務を経験する機会を与え、その経験を共有するからこそあらゆる業務に対して手厚いフォロー体制が敷かれている。
	<b>【特色】</b> 学生は自身の専門分野だけでなく幅広い知識や教養をえることができている。	<b>【特色】</b> ・特になし	<b>【特色】</b> 海外留学で研究に専念できる期間を設置することで若手教員のやる気を引き出し、人材の流出を防いでいる。	<b>【特色】</b> 海外留学で研究に専念できる期間を設置することで若手教員のやる気を引き出し、人材の流出を防いでいる。	<b>【特色】</b> 特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> 特になし	<b>【問題点】</b> 特になし	<b>【問題点】</b> 特になし	<b>【問題点】</b> 特になし	<b>【問題点】</b> 特になし
	<b>【課題】</b> 特になし	<b>【課題】</b> 特になし	<b>【課題】</b> 現状では若手教員の悩みや研究状況を汲み取ることができるのは研究室の指導教授だけであり、これは本来専攻指導教授全員でケアしていくべき課題と言える。	<b>【課題】</b> 特になし	<b>【課題】</b> 特になし
根拠資料名	東京農業大学大学院案内(生物資源開発学専攻)	東京農業大学大学院案内(生物資源開発学専攻)	生物資源開発学専攻会議議事録	・生物資源開発学専攻会議議事録 ・各教員の外部資金獲得状況を示した資料	生物資源開発学専攻・教員の学内業務履歴

学部・研究科名 農学研究科  
 学部長・研究科委員長名 多田 耕太郎  
 学科名・専攻名 デザイン農学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	本専攻のカリキュラムポリシーに基づき、専攻の特性を反映した科目を設定し、実施した。また、生命倫理、論文英語、プレゼンテーション法など、大学院の研究において、必要な科目を体系的に編成した。	日頃の研究成果を発表する場を儲けるとともに教員と大学院生との間でディスカッションの機会を設けるためにポスター発表会などの機会を設定した。学外にも同様の機会を設けるために学会等への参加を推奨している。	成績評価および単位認定については、担当教員が各授業の目標に達していたかを適切に判断し、実施している。学位授与(修了判定)については、専攻指導教授(准教授)による修了判定会議を実施し、研究成果、発表内容、修士論文などを客観的かつ厳正に評価し、決定している。	学生の成果はデザイン農学当別実習や発表などを通じて各研究室および専攻内の教員が把握・評価している。	必要に応じて専攻の教員で点検・評価を行っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・研究に必要な総合的スキルが習得できるとともに研究分野に応じたスキルも習得できる。	【長所】 ・ディスカッションを通じて、研究への理解向上、研究意欲の増進に貢献。	【長所】 ・単一の評価ではなく多面的な評価により、客観的に評価できる。	【長所】 ・発表を通じて、学生の理解度や総合的な力を見極めることができる。	【長所】 ・なし
	【特色】 ・各分野において独自性のある科目を展開。	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名					

## 2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	本専攻では推薦入試を実施せず、I 期および II 期の入学選抜試験にて入学者選抜を実施している。本専攻のアドミッションポリシーに基づいた人材を募集している。入学者選抜では、英語および専門科目による学力試験、さらに専攻教員全員による口述試験を実施している。試験による単純な学力だけでなく、アドミッションポリシーに合致した人材か、研究に対する理解度や意欲などについて評価する。総合的な評価を基に入試判定会議を専攻教員全員で実施し、公正に判定している。	修了年次生が2年間を通してどのように、研究活動に取り組んだかなどを点検し、専攻の適正があったか考え、入学選抜試験における評価が適当であったかを点検している。また必要に応じて改善について検討する。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	専攻の3ポリシー 大学院募集要項	

## 3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する現状説明	東京農業大学の求める教員像、農学研究科教員組織の編制方針に基づき、専攻の独自性を示すことができる教員組織の編制方針を策定している。	指導教授 8 名、指導補助准教授 3 名からなり、教育研究活動における指導が十分に行える教員数を配置している。	専攻では、専攻の将来的な計画に基づき、専攻内の教授が退職する時期を見据え、採用または現有教員の昇格が適切に行われるよう、検討している。	柔軟な教育および研究指導が行えるように教員自身の自己点検や授業評価を十分に確認し、改善に向けた参考にしている。	大学院関連の情報について、確実に情報共有をするとともに必要に応じて、改善などについて検討している。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名					

学部・研究科名 農学研究科  
 学部長・研究科委員長名 多田 耕太郎  
 学科名・専攻名 農学専攻

## 1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	学部との連携による専門性の高い実学的な教育活動		
実行サイクル	____2____年サイクル（令和7年～令和8年）	____年サイクル（令和 年～ 年）	____年サイクル（令和 年～ 年）
実施 スケジュール	大学院授業科目について、学部での関連授業科目との連続性を意識した授業を実施する。大学院研究発表会や修士論文発表会への学部生の参加を積極的に促す。 4月：学内推薦入試説明会 6月：学内推薦入試、一般入試説明会 7月：計画・中間発表会 12月：大学院研究発表会 2月：学科卒業論文発表会、修士論文発表会		
目標達成を測定する指標	大学院進学者数		
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	「大学院研究発表会」「修士論文発表会」に学部学生の参加を推奨しているほか、学部の授業においても最新的话题を常に取り込み、大学院への進学者の増加に努めている。さらに、推薦入試も実施して進学への門戸をできる限り広くしている。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・学部学生が進学への興味を喚起する機会を多く設けている。 <b>【特色】</b> ・学内推薦入試により学部の成績上位者が進学を意識しやすい。	<b>【長所】</b> ・ <b>【特色】</b> ・	<b>【長所】</b> ・ <b>【特色】</b> ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・博士後期課程への進学者数の低迷。 <b>【課題】</b> ・学部の卒業論文の時点から大学院進学への意識付け。	<b>【問題点】</b> ・ <b>【課題】</b> ・	<b>【問題点】</b> ・ <b>【課題】</b> ・
根拠資料名	資料包1（2025 大学院研究発表プログラム） 資料包2（令和7年度 大学院農学専攻論文発表会プログラム）		

## 2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	博士前期課程（修士）大学院生の学会発表の促進		
実行サイクル	____2____年サイクル（令和7年～令和8年）	____年サイクル（令和 ____年～ ____年）	____年サイクル（令和 ____年～ ____年）
実施 スケジュール	卒業論文からの継続性を活かして、学会等での研究成果の発表をできる限り早期にするとともに、後半にも発表することで発表回数の増加を目指す。 通年：各種学会等での発表 後期：大学院研究発表会、修士論文発表会、プレゼンテーション法開講		
目標達成を測定する指標	論文および学会発表等での発表回数		
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	「大学院研究発表会」では、開講科目「プレゼンテーション法」履修者のみならず、1年生を含めた多数（M1:8名、M2:10名）の大学院生が発表した。また、院生による学会や研究会等における口頭またはポスター発表の件数は本年度6件を数えた。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・発表者は経験が積めるとともに、未発表者が発表を目指す刺激となる。 <b>【特色】</b> ・特になし。	<b>【長所】</b> ・ <b>【特色】</b> ・	<b>【長所】</b> ・ <b>【特色】</b> ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・特になし。 <b>【課題】</b> ・学会等での発表件数の増加。	<b>【問題点】</b> ・ <b>【課題】</b> ・	<b>【問題点】</b> ・ <b>【課題】</b> ・
根拠資料名	資料包1（2025 大学院研究発表プログラム） 資料包3（2025年度 学会発表一覧）		



学部・研究科名 農学研究科  
 学部長・研究科委員長名 多田 耕太郎  
 学科名・専攻名 動物科学専攻

## 1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	大学・大学院連携教育の検討	大学院生と専攻教員の相互コミュニケーションの構築	
実行サイクル	3 年サイクル（令和5年～令和7年）	3 年サイクル（令和5年～令和7年）	年サイクル（令和 年～ 年）
実施 スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月の大学院I期入試合格者に対する後学期大学院講義の受講を検討する</li> <li>後学期開始の大学院特別講義において、6回予定している外部講師講演を公開講座とし、学部学生の出席を奨励する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前期、後期各1回の頻度で、動物科学専攻全体での研究進捗プレゼンテーションの機会を設定する。専攻の全教員が対面で大学院生の研究の進展および生活状況を把握する。</li> <li>令和5年7月 前期大学院研究進捗発表会</li> <li>令和6年1月 後期大学院研究進捗発表会</li> </ul>	
目標達成を測定する指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>学部学生の大学院講義聴講者数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物科学専攻所属の大学院生および教員参加数（目標：30名）</li> <li>学部学生参加数（目標：12名）</li> </ul>	
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	外部の講師を招いた講演会を積極的に行うことができた。	前期、後期各1回の研究進捗プレゼンテーションを実施した。	
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・色々の研究内容を聞くことが出来、自分の研究に生かすことが出来る。 <b>【特色】</b> ・様々な分野の講師の話聞く機会になっている	<b>【長所】</b> ・研究室を越えた交流が出来た。 <b>【特色】</b> ・教員と大学院生との交流の場となっている。	<b>【長所】</b> ・ <b>【特色】</b> ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・大学院特別講義が必修でないため、受講しない大学院生がいる。 <b>【課題】</b> ・次回のカリキュラム編成の際に検討が必要である。	<b>【問題点】</b> ・特になし <b>【課題】</b> ・特になし	<b>【問題点】</b> ・ <b>【課題】</b> ・
根拠資料名	大学院授業実施報告書 大学院特別講義成績	大学院研究進捗発表会資料	

## 2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	大学院生の研究レベル高位平準化	研究会、学会発表への参加	論文発表への参画
実行サイクル	___3___年サイクル（令和5年～令和7年）	___3___年サイクル（令和5年～令和7年）	___3___年サイクル（令和5年～令和7年）
実施 スケジュール	・半年に1回の頻度で、専攻全体での研究進捗発表会の機会を設定、また修士論文、博士論文発表会への発表者以外の参加を促す。 令和7年7月 前期大学院研究進捗発表会 令和7年1月 後期大学院研究進捗発表会 令和7年12月～8年2月 修士論文発表会、同博士論文発表会	年間を通じて	年間を通じて
目標達成を測定する指標	・畜産学専攻所属の大学院生および教員参加数（目標：30名） ・学部学生参加数（目標：30名）	<u>学会参加・発表人数</u>	<u>投稿論文数</u>
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	毎回の発表会において全大学院生の参加の元 活発に情報交換ができた	多くの学会に大学院生が参加した	年度あたり10本
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・研究室間での情報交換ができた。	【長所】 ・他大学の教員、学生と交流できた。	【長所】 ・国際的な研究交流 内容の底上げができた。
	【特色】 ・専攻の学生の交流の場となっている。	【特色】 ・研究会、学会への参加は研究に対する興味の動機付けになっている。	【特色】 ・研究に対する興味の動機付けになっている。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・研究の進捗によって参加が出来ない大学院生もいる。	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし。	【課題】 ・研究の進捗の管理などが必要である。	【課題】 ・今後投稿論文数の数を増やしていく必要がある。
根拠資料名	大学院研究進捗発表会資料 博士論文発表会要旨 修士論文発表会要旨	博士論文申請書 修士論文申請書	博士論文申請書 修士論文申請書

## 3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	大学院博士前期課程進学率の向上を目指した学部学生への早期のアプローチ	博士後期課程進学者の獲得	
実行サイクル	___4___年サイクル（令和4年～令和7年）	___3___年サイクル（令和5年～令和7年）	_____年サイクル（令和 年～ 年）
実施スケジュール	2月：大学院研究発表会への学部生の参加 4月：進路を含めた個別インタビュー 7月：卒業論文テーマの絞り込み 9月：実験に関するプログレスレポート提出	・動物科学専攻博士後期課程に進学する大学院生を積極的に獲得する。 特に、各研究室における活動で日常的に専攻教員が大学院生と密なコミュニケーションを取り、博士後期課程の情報などを積極的に提供する。 ・令和4年6月および12月 大学院進学説明会実施	
目標達成を測定する指標	I期入試による大学院進学者数 （目標：大学院入学定員数の充足）	博士後期課程進学者数	
自己評価 （☑を記入）	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	定員を上回る22名の進学者を確保した。	後期課程進学者を確保できた。	
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名			

学部・研究科名 農学研究科

学部長・研究科委員長名 多田 耕太郎

学科名・専攻名 生物資源開発学専攻

## 1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	学部との教育連携方法の検討		
実行サイクル	6年サイクル（令和4年～令和9年）	_____年サイクル（令和 年～ 年）	_____年サイクル（令和 年～ 年）
実施 スケジュール	大学院授業科目について、学部での関連授業科目との連続性を意識した授業内容の実施を検討するとともに、シラバスにおいてそのことを具体的に表現した記述を行う。		
目標達成を測定する指標	毎年のシラバスの改定に際して順次学部と授業との連続性を意識した表記を心掛ける。		
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科・専攻内に設置されたシラバス検討委員会による専攻のシラバスチェックが実施され、必要に応じて修正の指示が出され、改善が図られた。</li> <li>・授業の際、各担当教員が学部での内容について振り返りながら、より発展的な授業を実施した。</li> </ul>		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスのブラッシュアップが継続的に行われている。</li> <li>・授業の理解度が深まる。</li> </ul> <b>【特色】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の発展する過程を、よりリアルに感じてもらえる。</li> </ul>	<b>【長所】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul> <b>【特色】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>	<b>【長所】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul> <b>【特色】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul> <b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>	<b>【問題点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul> <b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>	<b>【問題点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul> <b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>
根拠資料名	専攻会議議事録 シラバス検討委員会による報告書		

## 2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	専攻の専門分野に関する研究の推進とその発信力の養成 修士課程進学者の増加		
実行サイクル	5年サイクル（令和4年～令和9年）	_____年サイクル（令和 年～ 年）	_____年サイクル（令和 年～ 年）
実施 スケジュール	高い専門性のある研究の推進とその発信 社会人経験者も視野に入れた修士課程の進学者を増加させる。		
目標達成を測 定する指標	研究成果や研究内容の学内外、専門・一般を問わない発表回数		
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻内の各分野から研究論文の出版、学会等での研究発表が積極的に行われた。</li> <li>・学内の大学院進学者だけでなく学外および社会人から進学者が現れた。</li> </ul>		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> これまでの学業的背景が多様な進学者によって構成される大学院は本専攻の研究の活性化と新しい発想の創出につながる  <b>【特色】</b> 特になし	<b>【長所】</b> ・  <b>【特色】</b> ・	<b>【長所】</b> ・  <b>【特色】</b> ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> 特になし  <b>【課題】</b> 年度によって大学院進学者数が大きく変動している	<b>【問題点】</b> ・  <b>【課題】</b> ・	<b>【問題点】</b> ・  <b>【課題】</b> ・
根拠資料名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本専攻教員関わった出版論文</li> <li>・学会・研究会等での発表要旨</li> <li>・本専攻大学院進学者数</li> </ul>		

## 3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	連続して入学定員以上の入学者を確保する。		
実行サイクル	__4__年サイクル（令和4年～令和7年）	_____年サイクル（令和 年～ 年）	_____年サイクル（令和 年～ 年）
実施 スケジュール	入学定員枠以上の入学者を獲得できたかどうかを検証する。		
目標達成を測 定する指標	個々の実施年度における入学者数が少なくとも3年間連続して入学定員以上となること。		
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	<p>本年度は4年計画の最終年度であるためこれを総括する。</p> <p>博士前期課程入学者は令和4年度14名、令和5年度23名、令和6年11名、令和7年度21名となった。年度により入学者数に変動はあったものの4年間を通して定員を上回ったことは評価に値する。また、令和6年度より本専攻に創設された博士後期課程には現在5名（うち2名は社会人入試）が在籍している。</p>		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> 本専攻の入学者は安定的に定員を満たしている	<b>【長所】</b> ・	<b>【長所】</b> ・
	<b>【特色】</b> 創設まもない博士後期課程も順調に入学者を確保している	<b>【特色】</b> ・	<b>【特色】</b> ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> 特になし	<b>【問題点】</b> ・	<b>【問題点】</b> ・
	<b>【課題】</b> 特になし	<b>【課題】</b> ・	<b>【課題】</b> ・
根拠資料名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専攻会議議事録</li> <li>・ 大学院学籍簿（令和4年度～令和7年度）</li> </ul>		

学部・研究科名 農学研究科  
 学部長・研究科委員長名 多田 耕太郎  
 学科名・専攻名 デザイン農学専攻

## 1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	各授業科目を確実に実施し、事後点検を行い改善点などを明らかにする。		
実行サイクル	1 年サイクル（令和7年）	年サイクル（令和 年～ 年）	年サイクル（令和 年～ 年）
実施 スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月～7月：前期授業の実施</li> <li>・9月～1月：後期授業の実施</li> <li>・1月～2月：事後点検を反映させた次年度授業計画</li> </ul>		
目標達成を測 定する指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席状況</li> <li>・受講院生へのアンケート結果</li> </ul>		
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	・各授業は確実に実施され、授業を通して確認された改善点について次年度の授業に反映できるように教員間の情報共有ができています。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・学生への知識や研究に関する最新の動向を教授できている。 <b>【特色】</b> ・なし	<b>【長所】</b> ・ <b>【特色】</b> ・	<b>【長所】</b> ・ <b>【特色】</b> ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・なし <b>【課題】</b> ・アクティブラーニングの強化	<b>【問題点】</b> ・ <b>【課題】</b> ・	<b>【問題点】</b> ・ <b>【課題】</b> ・
根拠資料名			

## 2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	学会および講演会への参加を推奨するとともに、各院生の研究計画、進捗状況および成果について発表する機会を設定する。		
実行サイクル	____1____年サイクル（令和7年）	____年サイクル（令和 ____年～ ____年）	____年サイクル（令和 ____年～ ____年）
実施 スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜：学会大会・講演会等の情報を提供</li> <li>・年度初め：研究計画</li> <li>・適宜：研究の進捗状況および成果の発表</li> </ul>		
目標達成を測 定する指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学会等への参加状況</li> <li>・研究計画、進捗状況および成果の評価</li> </ul>		
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての学生が学会等への参加しており、学外における研究成果の発信を経験した。また、研究計画および研究成果の発表の機会を設け、専攻に所属する全て学生が参加した。</li> </ul>		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・より実践的な経験をすることにより、総合力の向上や研究意欲の教場につながる。</li> </ul> <b>【特色】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なし</li> </ul>	<b>【長所】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul> <b>【特色】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>	<b>【長所】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul> <b>【特色】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なし</li> </ul> <b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なし</li> </ul>	<b>【問題点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul> <b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>	<b>【問題点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul> <b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>
根拠資料名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演要旨など</li> </ul>		

## 3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	各院生の将来目標・希望に添った進路指導体制を構築する。		
実行サイクル	<u>1</u> 年サイクル（令和7年）	_____年サイクル（令和 年～ 年）	_____年サイクル（令和 年～ 年）
実施 スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学後：進路希望調査</li> <li>・適宜：希望に応じた企業等の就職先紹介と支援 (博士後期課程進学希望者へは、長期的な研究計画と就職支援)</li> </ul>		
目標達成を測 定する指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望調査結果</li> <li>・進路指導状況</li> <li>・就職活動状況</li> </ul>		
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8人中7名の進路先が決定しているが、全員とはならなかった。学生が能動的に進路先を探ることができるような体制について検討が必要。</li> </ul>		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分に合った進路先の選択ができる。</li> </ul>	<b>【長所】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>	<b>【長所】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>
	<b>【特色】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なし</li> </ul>	<b>【特色】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>	<b>【特色】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>	<b>【問題点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>	<b>【問題点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>
	<b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職に関する情報の提供を強化</li> </ul>	<b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>	<b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>
根拠資料名			